



Sustainable Community Center Japan

NPO

New Public Organization
欲しいものは自分達で創る

2014 年度 活 動 報 告 書

2014 年 1 月 1 日～2014 年 12 月 31 日

2015 年 2 月 13 日

特定非営利活動法人
日本サステイナブル・コミュニティ・センター
<http://www.sccj.com/>

目次

はじめに 「2014 年度の報告と今後の抱負」

I センター事業活動実績

1. ユビキタス地域健康・医療・福祉情報ネットワーク事業「どこカル ネット」
 - 1-1. どこカル ネットの活動概要
 - 1-2. どこカル ネットのサービス概要
 - 1-3. どこカル ネットの各種活動実績
 - 1-4. どこカル ネット運営体制
2. 公衆無線インターネット事業「みあこネット方式」普及支援事業
 - 2-1. みあこネット方式普及支援事業の事業概要
 - 2-2. みあこネット方式普及支援事業の各種活動実績
 - 2-3. みあこネット方式普及支援事業の運営体制
3. 暮らしの食と農を身近に、こころ豊かな社会の創造事業「アグリライフ」
 - 3-1. アグリライフの活動概要
 - 3-2. アグリライフの各種活動実績
 - 2-3. アグリライフの運営体制
4. 研究会事業（産官民学の活発な人材交流）
 - 4-1. 京都研究会
5. 広報・マーケティング
 - 5-1. 各種メーリングリスト運営
 - 5-2. Web サイト運営
6. 会員について

II センター運営に関する活動

1. 総会開催
2. 2014 年度 SCCJ 理事会開催日
3. 事務局体制
4. 理事、監事、顧問

はじめに 「2014 年度の報告と今後の抱負」

特定非営利活動法人日本サスティナブル・コミュニティ・センター（SCCJ）は、2014 年度の活動を滞りなく遂行することができました。そして、大変うれしいことに、本年 1 月に入って、地域情報化大賞の大賞/総務大臣賞の受賞というお知らせが、飛び込んできました。私たちが長年取り組んできた「ポケットカルテ」及び地域共通診察券「すこやか安心カード」の活動が高く評価され、広く認めていただいたものと考えています。この事業に共に取り組んでいただいた方々に厚く御礼を申し上げますとともに、地域情報化や保健・福祉・医療の分野における社会革新を先導してきたことを皆様と共に誇りとしたいと思います。

私たちは、法人設立以来 13 年、この間に、情報通信技術の最先端の成果を活用しながら、持続可能な地域づくりに取り組んできました。一人一人の市民が暮らしやすい社会を作り上げるために、ICT を通じて様々な革新的な取り組みを展開してきましたが、その社会変革の先進的な試みが大きく結実したといえるのが、今回の受賞だと考えています。従来の医療や健康の考え方を電子カルテとネットワークの活用を通じて一人一人の市民の視点に立って根底から組み替える「ポケットカルテ」や「共通診察券」の開発とその社会実装の実現は、「個人番号カード」の発行が始まろうとする時期にあって、大変時宜にかなったものといえましょう。個人番号にはさまざまな活用方法が考えられますが、私たちの提案と実験は、これからの高度情報通信社会において極めて重要な貢献をするものと考えています。

2015 年 1 月に開催した第 16 回京都研究会では、今年の共通テーマを、「京都から世界に誇れるまちづくり～ICT の未来に何が必要か～」として、京都から持続可能な地域づくりの発信を目指すとともに、特に ICT による社会革新を通じて持続可能な地域という理想の実現を追求することにしていました。そこに、今回の受賞のお話があり、研究会の盛り上がりにも一層の輝きがあったように思います。

「どこカル ネット」のように、着実に大きく育ってきたプロジェクトもありますが、もちろん、これに限らず、私たちの活動はこれまでも幅広く展開してきていますし、現在進行中のものも、また、既にその役割を果たし終えたものもあります。その一方では、少しずつですが、新たな事業分野の開拓も進めていく必要があると思っています。

2015 年度も引き続き情報化社会の先端にあって、これからの地域社会を牽引していきたいと思っていますし、それが、私たちの使命である持続可能な社会づくりに貢献することにつながっていくと考えています。地域情報化大賞の表彰をいただいたことは、私たちにとっては、大きな励ましになっています。これを貴重なステップあるいは手がかりと考えて、これからの 1 年をさらに大きな飛躍の年にしたいと思います。

新年度を迎えて、SCCJ のミッションを達成していくために、これからの活動をさらに活発に進めていかなければなりませんが、それにあたっては、多くの会員の方々の積極的なご支援が必要です。皆様方のお力添え、ご指導、ご鞭撻をいただかなければ大きく前進することはできません。皆様のご協力にご期待を申し上げますとともに、皆様と一緒に持続可能な新しい地域をつくっていくことができればと考えています。

2015 年 2 月吉日

特定非営利活動法人

日本サスティナブル・コミュニティ・センター

代表理事 新 川 達 郎

I センター事業活動実績

1. ユビキタス地域健康・医療・福祉情報ネットワーク事業「どこカル．ネット」

<http://www.dokokaru.net>

1-1. どこカル．ネットの活動概要

どこカル．ネットは、近年、少しずつ普及しはじめた医療機関毎の電子カルテシステムをインターネット上で安心・安全に相互利用するための仕組みをつくることで、いつでも、だれでも、どこでも、安心・安全で質の高い医療を受けることが出来るような（すなわち、どこでもカルテが見ることが出来るような）地域の情報化を住民の手で実現しようというプロジェクトとして、2004年5月に開始。

「どこカル．ネット」プロジェクト開始以前に、北岡顧問が支援してきた3二次医療圏を経て、現状、48二次医療圏の地域中核病院・団体に対して標準化型電子カルテの導入支援や情報化支援を行っている。

また、同プロジェクトに賛同する31社を会員に迎え、ご協力いただいている。

また、2008年10月より、個人の健康履歴（検診データ管理、紹介状管理、入退院サマリー）を、インターネットを介して携帯端末やPCを用い、個人主体で管理可能なサービス「ポケットカルテ」の本サービスを開始している。

1-2. どこカル．ネットのサービス概要

■特徴：いつでも、どこでも、だれでも、安心安全で質の高い医療を受ける事が出来る社会的な仕組み作り

- 【1】 いつでも：ASP型電子カルテをツールとして、「かかりつけ医（診療所）」と「病院」で24時間体制の連携を目指し、診療情報の共有（一地域一患者一電子カルテ）を行う。（注：ASP型電子カルテとは、インターネットエクスプローラーなど、ホームページ閲覧ソフトのみで利用可能な電子カルテのことである。）
- 【2】 どこでも＝ユビキタス：「みあこネット方式普及支援事業」プロジェクトとの協業により、医療機関内だけでなく、患者＝住民の自宅や外出先での急病で初診した医療機関、救急現場に居合わせた医療関係者に過去の診療情報を共有やその情報に基づく適切な医療が可能。
- 【3】 だれでも：ITコンソーシアム京都（京都府・京都市・京都商工会議所と有識者で構成）医療情報化部会との協業で進められている「共通診察券（無償）」を持つ事で、適切な医療を受けることが可能。
- 【4】 安心安全：「みあこネット方式普及支援事業」の高度なセキュリティを持った公衆無線インターネット用アクセルルータ（無線基地局）を利用。また、医療従事者や患者＝住民の識別や認証には、「共通診察券」と「指静脈紋認証（生体認証のひとつ）」を組み合わせている為、世界最高レベルの環境を提供している。さらに、診療情報の共有により、薬アレルギーや現在内服中の薬との飲み合わせのチェック等がその場で可能。→医療過誤防止へ。
- 【5】 質の高い健康・医療・福祉：共有されている診療情報の内、本人のご承諾が得られた情報については匿名化し、「その地域の住民特有の」健康・医療・福祉情報として統計解析し、「その地域の住民に最適な」健康・医療・福祉環境を探索する。また、解析結果を基に、一人一人の住民に最適な健康・医療・福祉をテラーメイドで提供。

1-3. どこカル．ネットの各種活動実績

2014年度は以下の活動を実施した。

■ 「どこカル．ネット」事業会議

週1回、北岡顧問、中辻事業運営責任者及びスタッフ一同で定例会議を実施。2014年度においては計42回の会議を開催した。

■ 医療機関・学術団体向けの医療情報システム・医療関連システム導入・構築・更新に対するコンサルテーション

医療機関側に不足しがちな IT スキルを補い、助言をし、医療機関と同じ立場で導入ベンダと交渉等を行う。また、医療情報を適切に扱う体制作りや、問題解決に対する助言、支援を実施。2014 年度終了迄に定期的な支援を行った医療機関、団体は 48 病院、1 診療所グループ。

■ 「ポケットカルテ」～個人向け健康情報管理サービス～の普及活動

「ポケットカルテ」は当法人顧問である独立行政法人国立病院機構京都医療センター医療情報部長北岡有喜博士が企画・考案し、当法人がサービスを提供している個人向け健康医療福祉履歴情報管理サービス (PHR : Personal Health Record) で、利用者は、専用のサイト「ポケットカルテ」に会員登録し、携帯電話・PHS、スマートフォン、パソコンなどの情報端末から自身の健康・医療・福祉の情報を管理することができる。

2008 年秋からサービスの提供を開始し、様々なメディアで紹介され、正式サービス開始から 4 ヶ月間 (2009 年 1 月時点) で、10,000 ユーザーを突破した。サービス開始当初に対応していた携帯電話・PHS に加え、普及が目覚ましいスマートフォンやタブレット端末にも対応し、より多くのユーザーが快適に利用できるようになり、現在 (2014 年 12 月時点) **45,000 ユーザー**を超えている。

2011 年 11 月より開始した「ポケットカルテ電子版お薬手帳」サービスでは、医療機関で発行される領収書に印字された「2 次元バーコード (QR コード)」経由で、調剤情報、及び、医療費明細書情報をポケットカルテに取り込むことができる。現在 (2014 年 12 月時点) では、**全国 610 以上の調剤薬局**に拡大した。

2014 年度 (2014 年 1 月から 2014 年 12 月まで) においては、次のサービスを新たに開始した。

① 2014 年 2 月 「ポケットカルテ電子版透析手帳」のリリース

2014 年 2 月に「ポケットカルテ電子版透析手帳」を公開し、かかりつけ透析施設名、透析導入日、最終透析日、最終透析施設名、透析方法、透析膜、透析液、血液流量などの透析関連情報を患者自身が登録・閲覧することが可能となった。京都腎臓病患者協議会、兵庫県腎友会、大阪腎臓病患者協議会、滋賀県腎臓病患者福祉協会に加盟している患者を中心に利用が開始された。

「ポケットカルテ電子版透析手帳」の画面

現時点では、透析関連情報を患者自身が入力する必要があり、このため、入力の手間暇や入力の間違いなど利用者からの課題提起があった。これを解決するために、京都大学医学部附属病院腎臓内科と協業し、ニプロ社の透析システムを使用するわたなべ湖西クリニック (滋賀県大津市) の協力のもと、同社透析管理システムと連携して患者自身がデータの入力することなく「ポケットカルテ電子版透析手帳」に自動的にデータを転送する仕組みを構築するための実証実験を実施している。

② 2014 年 4 月 柏原赤十字病院向け「ポケットカルテ電子版健診手帳」のリリース

2014 年 4 月に柏原赤十字病院（兵庫県丹波市）向けに「ポケットカルテ電子版健診手帳」を公開し、市民健診の際に住民から同意を得る事を前提に健診結果を病院からポケットカルテへ自動的にデータ転送することで、住民がポケットカルテの会員登録や健診結果の手入力などをすることなく自身のポケットカルテで健診結果を管理することが可能となった。現在（2014 年 12 月時点）では、10,266 人が「ポケットカルテ電子版健診手帳」を利用登録している。

コンやスマートフォン、タブレット端末のブラウザ画面で参照することが可能となっております。





マイカルテ

検査・問診結果セクション

身長
164 cm

体重
kg

BMI
kg/m2

腹囲
cm

収縮期血圧(1 回目)
mm[Hg]

拡張期血圧(1 回目)
mm[Hg]

中性脂肪 (トリグリセリド)
mg/dL

HDLコレステロール
mg/dL

LDLコレステロール
mg/dL

GOT/AST

マイカルテ

会員情報

透析手帳

健診手帳

ログアウト

健診手帳

日付	タイトル	医療機関名
2011年10月10日	特定健診情報の報告	アビウス病院

Copyright (c) Sustainable Community Center Japan(SCCJ) All rights reserved.

「ポケットカルテ電子版健診手帳」の画面

③ 2014 年 7 月 「ポケットカルテ電子版 NICU 退院手帳（長期フォローアップ手帳）」デモ版のリリース

2014 年 7 月に「ポケットカルテ電子版 NICU 退院手帳（長期フォローアップ手帳）」のデモ版を大阪府立母子保健総合医療センター（大阪府和泉市）、及び、日本小児科関連学会の関係者らに公開した。「電子版 NICU 退院手帳」では、低出生体重児、胎児治療児、先天性風疹症候群（CRS）児など、それぞれの専門施設においても長期的に把握し続けることが困難な情報を、医療関係者や対象児の両親が、対象児の基本情報や出生時記録（性別・生年月日・在胎期間・出生体重）、及び、母子手帳記録に加えて、連絡先の情報（両親の氏名・住所・連絡先・施設の情報・最寄りの保健所の情報）、疾患の内容、発達検査の内容、腎機能などを登録する。これにより、対象児が成人になるまでの長期的なフォローアップが可能となる。現在、日本小児科関連学会の関係者らと運用方法を検討している。

ポケットカルテ
～NICU退院手帳デモ版～



自分の健康情報は自分で管理。だから安心・安全！

[ポケットカルテへ](#)

[基本情報](#) [連絡先](#) [関連施設](#)

[出生児記録](#)

[疾患分野別フォロー予定区分](#)

[発達検査](#) [腎機能その他](#)

基本情報

		編集
児 氏名	京都 京太 キョウト キョウタ	
性別	男	
生年月日	2014年7月7日 平成26年7月7日	
在胎期間	28 週 2 日	
出生体重	1995 g	
母 氏名	京都 花子 キョウト ハナコ	
父 氏名	京都 太郎 キョウト タロウ	
	2014/07/16 12:59 更新	

Copyright (C) NPO法人SCCJ どこカル、ネット All rights reserved.

[基本情報](#) [連絡先](#) [関連施設](#)

出生児記録

[疾患分野別フォロー予定区分](#)

[発達検査](#) [腎機能](#) [検査結果](#)

出生時記録

	編集
アプガー点数 1分	5
アプガー点数 5分	5
アプガー点数 10分	5
出生体重	1995 g
出生体重(SD)	6.277
出生身長	31 cm
出生身長(SD)	-2.584
出生時頭囲	10 cm
出生時頭囲(SD)	-5.995
SGA(出生体重<-1.5SD)	なし
出生体重 1500g以下NRN登録	
	2014/07/16 01:10 更新

Copyright (C) NPO法人SCCJ どこカル、ネット All rights reserved.

出生時情報の編集

アプガー点数 1分

5

アプガー点数 5分

5

アプガー点数 10分

5

初産/経産 **必須**

☒ 初産 ☐ 経産

在胎期間(週) **必須**

28 週

在胎期間(日)

2 日

出生体重 (g) **必須**

1995

出生体重SD 6.277, SGA なし

出生身長(cm)

31

出生身長SD -2.584

出生時頭囲(cm)

10

出生時頭囲SD -5.995

出生体重 1500g以下NRN登録

[登録する](#)

[キャンセル](#)

Copyright (C) NPO法人SCCJ どこカル、ネット All rights reserved.

「ポケットカルテ電子版 NICU 退院手帳」デモ版の画面

④ 2014 年 9 月 J: COM インタラク TV 版「ポケットカルテ」サービス全国展開

2013 年 10 月に株式会社ジュピターテレコム（以下、J: COM）と提携し、J: COM 京都みやびじょんからトライアルとしてインタラク TV 版「ポケットカルテ」のサービスが開始された。2014 年 9 月 4 日、J: COM のグループ企業全社において同サービスが開始され、これにより、インタラク TV 版「ポケットカルテ」サービスが全国展開した。



J: COM インタラク TV 版「ポケットカルテ」の画面

⑤ 2014年11月 ポケットカルテ情報端末（キオスク端末）開発完了

新たな端末として開発をはじめたポケットカルテ情報端末（キオスク端末）は、2014年11月に開発が完了した。2015年1月中旬より京都医療センターのスタッフへの操作説明を行い、運用開始となるよう進めている。これにより、パソコンや携帯電話に不慣れな小児や高齢者であっても、「地域共通診察券（すこやか安心カード）」を持ち歩くだけで「ポケットカルテ」の健診結果や「ポケットカルテ電子版お薬手帳」の閲覧・登録が可能となる。



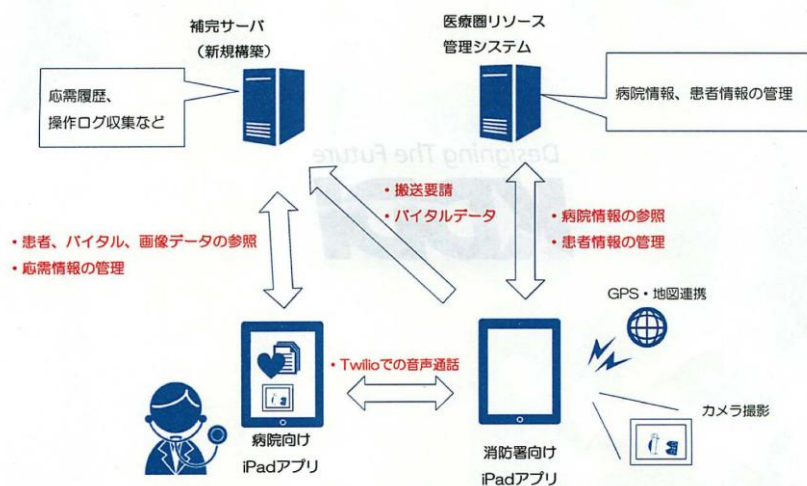
写真：ポケットカルテ情報端末（キオスク端末）（左）とその画面（右）

⑥ 一般社団法人ケーブルテレビ連盟との協業によるケーブルテレビ事業者への「ポケットカルテ」の提供

現在、一般社団法人ケーブルテレビ連盟と協業することで、J:COMグループ以外のケーブルテレビ事業者に対して、自宅のテレビから「ポケットカルテ」にアクセスして自身の受診履歴や薬歴を簡単に閲覧できるサービスを提供するための取り組みを行っている。特に、全国のケーブルテレビ事業者が随時導入を進めている新製品「Smart TV Box」を活用して、受診履歴・薬歴データが自動的にデータ転送される装置として使用できるように作業を進めている。

⑦ 医療圏リソース管理システムの継続的な開発

iOS版医療圏リソース管理システムについては、2014年4月3日、4月10日、4月24日、5月15日に打ち合わせを行っており、最終的な要件定義が終了し、アプリの開発が進んでいる。カードリーダーのプロトタイプとの連携を進めており、データの暗号化等セキュリティ面について検討している。またポケットカルテとの連携機能についても進めている。



医療圏リソース管理システム概念図

■ 地域共通診察券（すこやか安心カード）発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業

昨今の医療の高度化や患者ニーズの個別化・多様化により、医療機関への負担が増加しているにも関わらず、京都府では医療機関の減少が続いている。このため他の都道府県と同様に、地域医療格差・医師偏在、救急患者や妊婦のたらい回しなど、地域医療における課題が顕在化しつつある。

これらの課題を解決するため、当法人を代表とし、京都市・宇治市・城陽市・久御山町・奈良県生駒市の推薦を受け、平成 22 年度・23 年度に、総務省「地域 ICT 活用広域連携事業」に「地域共通診察券（すこやか安心カード）発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業」（以下、「地域共通診察券事業」とする）を提案し、採択された。

地域共通診察券事業は、上記「ポケットカルテ」を情報基盤とし、地域共通診察券発行・健康医療福祉履歴管理・医療圏リソース管理を統合的に提供することにより、地域医療に関わる医療資源（医療従事者・医療機器・設備）をひとつの仮想巨大医療機関とみなして有効活用し、質の高い安心・安全な地域医療提供体制を確立するための情報基盤整備を目的としている。

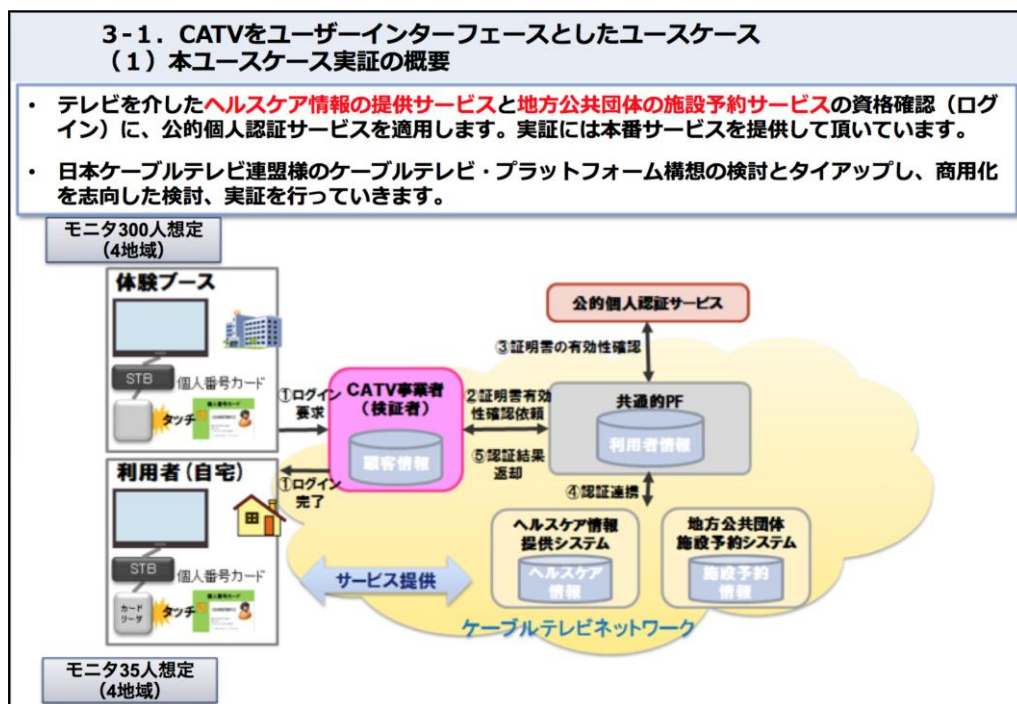


サービス概念図

2012 年 3 月で総務省「地域 ICT 活用広域連携事業」は終了したが、自立的に地域共通診察券事業を継続し、対象地域の拡大、広報活動などを行った。2013 年 12 月には京都府京田辺市、2014 年には愛知県名古屋市（名古屋掖済会病院）でサービス提供を開始し、「地域共通診察券（すこやか安心カード）」が利用可能な医療機関は、98 件（18 病院、34 診療所、46 調剤薬局、2014 年 12 月時点）となった。また、京都府腎臓病患者協議会などと連携し、広報活動を行うことにより、「地域共通診察券（すこやか安心カード）」の実利用者数は 17,286 名（2014 年 12 月時点）となった。

■ 平成 26 年総務省委託事業 「公的個人認証サービスの民間活用に係る実証実験」

2018 年 1 月発行開始予定のマイナンバーカードに、「地域共通診察券（すこやか安心カード）」の機能を搭載できるように、2014 年 10 月より、総務省委託事業として、NTT データ社、日本デジタル配信社と共に公的個人認証サービスの民間活用の実証実験を開始した。具体的には、京都医療センターの来院患者から 50 名程度のモニターを募集して、マイナンバーカードのダミーカードを提供し、カードリーダーを取り付けた「Smart TV Box」にダミーカードをかざすと個人認証され、インタラク TV 版「ポケットカルテ」上にログインして自身の受診履歴や薬歴が簡単に閲覧できることを体験していただき、モニターへアンケート調査を行い、実用化・普及展開に向けた課題抽出を行う。



実証実験の概念図



写真：公的個人認証サービスの民間活用に係る実証実験に用いられるダミーカード

■ 平成 26 年度「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」ならびに「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会の実施

地域共通診察券事業の進捗状況の共有と、今後の事業展開等についてのディスカッションを行うため、毎月第 3 木曜に運営協議会を実施した。また、同日同会場にて、地域共通診察券事業に関連するテーマにおける「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会を実施した。

＜地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会 開催日＞

2014 年 1 月 16 日（木）	第 41 回 「地域共通診察券運営協議会」 第 33 回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
2014 年 2 月 20 日（木）	第 42 回 「地域共通診察券運営協議会」 第 34 回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
2014 年 3 月 20 日（木）	第 43 回 「地域共通診察券運営協議会」 第 35 回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
2014 年 4 月 17 日（木）	第 44 回 「地域共通診察券運営協議会」 第 36 回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
2014 年 5 月 15 日（木）	第 45 回 「地域共通診察券運営協議会」 第 37 回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
2014 年 6 月 19 日（木）	第 46 回 「地域共通診察券運営協議会」 第 38 回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
2014 年 7 月 17 日（木）	第 47 回 「地域共通診察券運営協議会」 第 39 回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
2014 年 8 月 21 日（木）	第 48 回 「地域共通診察券運営協議会」 第 40 回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
2014 年 9 月 18 日（木）	第 49 回 「地域共通診察券運営協議会」 第 41 回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
2014 年 10 月 16 日（木）	第 50 回 「地域共通診察券運営協議会」 第 42 回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
2014 年 11 月 20 日（木）	第 51 回 「地域共通診察券運営協議会」 第 43 回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
2014 年 12 月 18 日（木）	第 52 回 「地域共通診察券運営協議会」 第 44 回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会

今後も、「ポケットカルテ」「地域共通診察券（すこやか安心カード）」を通して、医療の情報化、地域住民の健康増進への貢献、電子行政サービスの普及を推進し、さらに利用者の統計データの活用により新しいサービスを創造することを目指していく。



写真：地域共通診察券運営協議会での様子

日経デジタルヘルス
医療・健康・介護の技術革新で新産業を

「診療情報を自己管理して健康を守る」、ケーブルTVでもポケットカルテ
北岡 有喜氏 国立病院機構 京都医療センター 医療情報部長/情報化推進研究室長

田中 正晴＝日経ニューメディア 2014/03/24 16:59
出典：日経ニューメディア、2014年3月10日号、pp.13-14（記事は執筆時の情報に基づいており、現在では異なる場合があります）

ジェイコムウエストの京都市やびじょん局とNPO法人の日本サステイナブル・コミュニティ・センター（SCCJ）は、個人向け健康情報管理サービス「ポケットカルテ」のトライアル提供を、J:COMのTVサービスで2013年10月に開始した。

ポケットカルテとは、利用者が「自己情報コントロール権」を完全に満たす形で、検診履歴や受診履歴、お薬手帳の内容といった自らの診療情報などライフログ情報を生涯にわたり蓄えて無料で管理できる仕組みである。蓄積した情報のビューア端末として、これまでのスマホ/ケータイやパソコンに加えて、京都市やびじょん局との取り組みで、STB（セットトップボックス）経由でテレビでも利用できるようになった。

クラウド型PHR（Personal Health Records）あるいはPLR（Personal Life-log Records）の最先端の実用事例であるポケットカルテについて、考案者の国立病院機構 京都医療センター 医療情報部長/情報化推進研究室長である北岡有喜氏（京都大学医学博士）に聞いた。

（聞き手は田中正晴＝日経ニューメディア編集長）

——ポケットカルテの出発点は。

北岡 そもそも紙のカルテの時代は、カルテが病院にあるので病院のものと考えがちだった。しかし、病院に行っても例えば血液検査を行った場合にその生データは、制度上は受診者の所有物という考え方が国内外のコンセンサスの主流である。自分の診療のために病院にデータを預けているという解釈で、日本の制度でも情報開示請求するとカルテのコピーを入手できる。診療情報のうち生データは診療を受けた個人のものであり、誰もが自らのデータを閲覧する権利があるというのが原点だ。

一般に診療の記録は、受診した個々の医療機関ごとに個別に管理されており、個人の手元にはない。しかも医療法上、診療記録の保持期限はわずか5年間しかない。一方で例えば各種のワクチン注射を打ったのか打っていないのか、いつ打ったのかといった情報は医者ですら必ずしも覚えていない。しかし医療行為の現場で感染症が疑われる症状がでると、こうした情報は治療方針を決めるうえで極めて重要となる。これは一例だが、各種の診療情報を病院に預けるのに加えて、自身で時系列で集約管理できる仕組みがないと、自分の健康を守れない。

——開発は、どういう経緯を経たのか。

北岡 まず1999年春に国立京都病院（現京都医療センター）で電子カルテシステムを稼働させた。スタートしてす

日経デジタルヘルス 「診療情報も自己管理して健康を守る、ケーブルTVでもポケットカルテ」 3月24日（月）
（日経ニューメディア2014年3月10日号掲載）

■ 「どこカル．ネット」会員研修会

本プロジェクトの概要と現状、進捗状況等について情報共有すると共に、会員互の連携・親睦を図る機会として2ヶ月に一度開催。2014年度においては5回の研修会を開催した。

＜研修会開催日＞

- ・ 2014年3月14日（金） 第57回どこカル．ネット企業会員研修会
- ・ 2014年5月16日（金） 第58回どこカル．ネット企業会員研修会
- ・ 2014年7月25日（金） 第59回どこカル．ネット企業会員研修会
- ・ 2014年9月19日（金） 第60回どこカル．ネット企業会員研修会
- ・ 2014年11月21日（金） 第61回どこカル．ネット企業会員研修会



写真：会員研修会での様子

■ 「未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」の実施

将来の医療従事者の育成・発掘、また創造的な医療分野の開拓を目的とし、小学生を対象とした作文コンクールを実施。

第10回目の開催となる2014年度は、全国の小学生から作文が応募され、全国各地偏りなく400字詰めいっぱいに書かれた力作が多く集まった。最優秀賞該当作品はなかったものの、未来の医療に対し多くの子供達が夢を抱いていることがどの作品からも読み取ることができ、開催の意義が感じられた。

■ 2014年の主なイベント一覧

- ・ 01月09日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 01月16日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 01月16日 第41回(平成25年度第10回) 「地域共通診察券(すこやか安心カード)発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業」運営協議会
- ・ 01月16日 第33回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
- ・ 01月23日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 01月31日 生駒市医療費適正化専門部会に参加
- ・ 02月06日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 02月13日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 02月20日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 02月20日 第42回(平成25年度第11回) 「地域共通診察券(すこやか安心カード)発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業」運営協議会
- ・ 02月20日 第34回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
- ・ 02月21日 日本ケーブルテレビ連盟トップセミナーにて講演
- ・ 02月27日 総務省北陸 ICT 利活用普及促進セミナーにて講演
- ・ 03月06日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 03月14日 どこカル. ネット第57回企業会員研修会
- ・ 03月20日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 03月20日 第43回(平成25年度第12回) 「地域共通診察券(すこやか安心カード)発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業」運営協議会
- ・ 03月20日 第35回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
- ・ 03月20日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 04月03日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 04月10日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 04月10日 地方公共団体情報システム機構第1回経営審議委員会参加
- ・ 04月17日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 04月17日 第42回(平成26年度第1回) 「地域共通診察券(すこやか安心カード)発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業」運営協議会
- ・ 04月17日 第36回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
- ・ 04月24日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 05月01日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 05月08日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 05月09日 厚労科研「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究(田口班)」平成26年度第1回コアメンバー会議に参加
- ・ 05月15日 第45回地域共通診察券運営協議会・第37回合同勉強会
- ・ 05月15日 第45回(平成26年度第2回) 「地域共通診察券(すこやか安心カード)発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業」運営協議会
- ・ 05月15日 第37回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
- ・ 05月16日 第58回どこカル. ネット企業会員研修会
- ・ 05月29日 【日本ケーブルテレビ連盟】東海支部で講演
- ・ 05月29日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 06月05日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 06月12日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 06月13日 【地方公共団体情報システム機構】第2回経営審議委員会に参加
- ・ 06月19日 第46回(平成26年度第3回) 「地域共通診察券(すこやか安心カード)発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業」運営協議会

- ・ 06月19日 第38回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
- ・ 06月19日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 06月26日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 06月27日 生駒市医療費等適正化推進委員会参加
- ・ 07月03日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 07月10日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 07月14日 第50回日本周産期・新生児医学会にて講演
- ・ 07月17日 第47回(平成26年度第4回)「地域共通診察券(すこやか安心カード)発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業」運営協議会
- ・ 07月17日 第39回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
- ・ 07月17日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 07月18日 【鈴鹿市医師会】ポケットカルテの講演会
- ・ 07月24日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 07月25日 どこカル. ネット企業会員研修会(納涼会)
- ・ 07月30日 【ITコンソーシアム京都】第9回委員会・総会(京都リサーチパーク)
- ・ 07月31日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 08月07日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 08月21日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 08月21日 第48回(平成26年度第5回)「地域共通診察券(すこやか安心カード)発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業」運営協議会
- ・ 08月21日 第40回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
- ・ 08月28日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 09月04日 J:COM インタラク TVでのポケットカルテ利用サービスの全局配信開始
- ・ 09月04日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 09月11日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 09月18日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 09月18日 【日本CATV連盟】ヘルスケアSWG第1回会合に参加
- ・ 09月18日 第49回(平成26年度第6回)「地域共通診察券(すこやか安心カード)発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業」運営協議会
- ・ 09月18日 第41回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
- ・ 09月19日 第60回どこカル. ネット企業会員研修会
- ・ 09月25日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 10月09日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 10月10日 生駒市医療費等適正化推進委員会参加
- ・ 10月16日 第50回(平成26年度第7回)「地域共通診察券(すこやか安心カード)発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業」運営協議会
- ・ 10月16日 第42回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
- ・ 10月16日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 10月23日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 10月30日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 11月06日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 11月13日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 11月20日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 11月20日 第51回(平成26年度第8回)「地域共通診察券(すこやか安心カード)発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業」運営協議会
- ・ 11月20日 第43回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会
- ・ 11月27日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 11月28日 【日本CATV連盟】ヘルスケアSWG第3回会合
- ・ 12月04日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 12月04日 【日本CATV連盟】ID連携利活用WG第2回会合に参加
- ・ 12月11日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 12月18日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会
- ・ 12月18日 第52回(平成26年度第9回)「地域共通診察券(すこやか安心カード)発行による安心・安全な健康医療福祉情報基盤整備事業」運営協議会
- ・ 12月18日 第44回 「ポケットカルテ」「地域共通診察券」合同勉強会

- ・ 12月25日 定例会 「ポケットカルテ」「地域共通診察券(すこやか安心カード)」プロジェクト定例会

1-4. どこカル. ネット運営体制

■ 運営体制 <http://www.dokokaru.net/modules/tinyd0/index.php?id=7>

【責任者体制】

役職	氏名	所属
事業統括責任者	新川 達郎	同志社大学大学院総合政策科学研究科教授
事業運営責任者	中辻 善行	NP0 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター
総括技術責任者	事業統括責任者兼務	
技術運用責任者 (情報通信技術担当)	小森 由宗	NP0 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター
財務責任者	事業統括責任者兼務	

【担当顧問】

氏名	所属
北岡 有喜	国立病院機構京都医療センター医療情報部長
國領 二郎	慶應義塾常任理事

【企業/企業会員】

種別	企業名	企業名
企業会員	アイテック阪急阪神株式会社	JBCG 株式会社
	アライドテレシス株式会社	株式会社ソフトウェア・サービス
	株式会社医用工学研究所	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
	株式会社インスパイア	日本システム開発株式会社
	株式会社インテージ	日本デジタル配信株式会社
	株式会社エヌ・エイ・シー	株式会社ハートネットワーク
	亀田医療情報株式会社	株式会社日立ソリューションズ
	京都電測株式会社	株式会社ファルコバイオシステムズ
	KDDI 株式会社	株式会社フェイス
	サクサ株式会社	株式会社ミライテクノ
	ジャパンケーブルキャスト株式会社	メディカル・データ・ビジョン株式会社
	ジュピターテレコム株式会社	株式会社リコー
	財団法人聖マリアンナ会	

他5社、計30社(50音順、2014年12月末現在)

2. 公衆無線インターネット事業「みあこネット方式」普及支援事業

<http://www.miako.net/>

2-1. みあこネット方式普及支援事業の事業概要

みあこネットとは、市民の手で自分の住んでいる地域を情報化しようというプロジェクトで、当法人の呼びかけにより2002年5月から広がり、市民有志の負担でアクセスポイントを設置・運用する活動である。企業内、家庭内におけるネットワークへ、安心・安全に基地局を運営し、また利用者にとっても簡単に公衆でインターネット接続を利用できる方法として、VPNを利用した「みあこネット方式」を提唱し、同方式の普及支援活動を実施している。

プロジェクト開始から2005年3月末までの3年間は、SCCJを運営母体とする実証実験を実施。2005年4月～2008年3月末は、京都の地域プロバイダ「京都アイネット」での商用運用の採用があり、地域内情報バリアフリーの一役を担った。同社は2008年3月をもって、「みあこネット方式」を用いた商用運用を終了している。

2008年4月からは、「みあこネット方式」に準拠したサーバをパッケージ化し、京都大学や京都医療セン

ター独自の運用として自律分散的に運用されている。

2-2. みあこネット方式普及支援事業の各種活動実績

前年度までに引き続き「みあこネット方式」の普及支援を行った。

- ・ 京都大学において展開されている「みあこネット方式」の基地局数が1200を超え、さらに増設中である。
- ・ IEEE802.11i など安全な無線 LAN 認証方式を踏まえ、次世代の公衆無線インターネット接続方式についても検討している。

2-3. みあこネット方式普及支援事業の運営体制

■ 運営体制 <http://www.miako.net/about/organization.shtml>

【みあこネット責任者】

役職	氏名	所属
事業統括責任者	岡部 寿男	京都大学学術情報メディアセンターネットワーク研究部門教授

【担当顧問】

氏名	所属
北岡 有喜	国立病院機構京都医療センター医療情報部長

3. 暮らしの食と農を身近に、こころ豊かな社会の創造事業「アグリライフ」

<http://www.agri-life.net/>

3-1. アグリライフの活動概要

ICT を活かした安心・安全な食と農のある暮らしの根ざす地域社会作り、都市と農村の持続可能な交流と産業モデル作りを行う。なお、アグリライフは2005年より実施している「こころネット」の掲げる理念「障害の有無や、性別、年齢にかかわらず自律性、自発性、創造力を発揮できる安心・安全な社会モデル作り」はそのまま踏襲し、2009年6月1日付けで発展的改称した事業である。アグリライフの事業は、上記理念を掲げる事業を行う主催事業と、他団体・企業に対する企画立案、各種支援事業に分けられる。アグリライフは、2011年1月末をもってすべての事業を終了し、現在は新たなプロジェクトを休止している。

3-2. アグリライフの各種活動実績

本年度の活動実績なし。

3-3. アグリライフ運営体制

■ 運営体制

【責任者体制】

役職	氏名	所属
事業統括責任者	隅岡 敦史	NPO 法人日本サスティナブル・コミュニティ・センター理事

【担当顧問】

氏名	所属
北岡 有喜	国立病院機構京都医療センター医療情報部長

4. 研究会事業（産官民学の活発な人材交流）

4-1. 京都研究会

毎年恒例となっている研究会事業の京都研究会について、2014-2015年度は2015年1月30日（金）に開催を予定している。内容は以下の通り。

■ 第16回京都研究会 2014-2015

<http://www.sccj.com/kk/2014-2015/>

「～京都から世界に誇れる街づくり～ITの未来に何が必要か～」

【内容】

- 12:00～ 受付開始
- 13:00～13:05 開会の挨拶：新川 達郎（同志社大学大学院総合政策科学研究科教授/NPO法人日本サステナブル・コミュニティ・センター代表理事）
- 13:05～13:50 「自治体オープンデータの活用と展望」
講演：新川 達郎（同志社大学大学院総合政策科学研究科教授/NPO法人日本サステナブル・コミュニティ・センター代表理事） 青木 和人 氏（あおき地理情報システム研究所 代表）
- 13:50～14:20 「近年増えつつある小規模農産物マーケットの展望と課題」
講演：隅岡 敦史（NPO法人日本サステナブル・コミュニティ・センター理事）
- 14:20～15:10 「難しく考えずに、まずは始めようビッグデータ」
講演：竹原 司（インフォグリーン株式会社代表取締役/株式会社デザイン・クリエイション最高顧問/NPO法人日本サステナブル・コミュニティ・センター副代表理事）、長岡 均 氏（株式会社シンク・アンド・ゴー代表取締役）
- 15:10～15:25 休憩
- 15:25～16:15 「マイナンバーと個人のヘルスケア情報管理
～ポケットカルテプロジェクトの現在とこれからを中心に～」
講演：北岡 有喜（独立行政法人国立病院機構京都医療センター医療情報部長/NPO法人日本サステナブル・コミュニティ・センター顧問）
- 16:20～17:00 【総合討論会】『京都から世界に誇れる街づくり』
コーディネータ：新川 達郎（同志社大学大学院総合政策科学研究科教授/NPO法人日本サステナブル・コミュニティ・センター代表理事） パネリスト：竹原 司（インフォグリーン株式会社代表取締役/株式会社デザイン・クリエイション最高顧問/NPO法人日本サステナブル・コミュニティ・センター副代表理事）、隅岡 敦史（NPO法人日本サステナブル・コミュニティ・センター理事）、北岡 有喜（独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 医療情報部長/NPO法人日本サステナブル・コミュニティ・センター顧問）、青木 和人 氏（あおき地理情報システム研究所 代表）、青木 和人 氏（あおき地理情報システム研究所 代表）
- 17:00～ 閉会の挨拶：竹原 司（インフォグリーン株式会社代表取締役/株式会社デザイン・クリエイション最高顧問/NPO法人日本サステナブル・コミュニティ・センター副代表理事）

第2部 分科会（懇親会）：閉会後～19:00

【会場】ルヴェ ソン ヴェール岡崎

住所：京都市左京区粟田口鳥居町 2-1 京都市国際交流会館内

電話：075-762-1777

【参加費】有料

- ・研究会（13:00～17:00）のみの参加
一般：1,000 円
SCCJ 会員（みあこ・どこカル ネット・アグリライフ企業・団体会員/個人・学生・ベテラン会員）および地方公共団体職員の方：無料
- ・研究会、懇親会（閉会後～19:00）すべて参加
一般：5,000 円
SCCJ 会員（みあこ・どこカル ネット・アグリライフ企業・団体会員/個人・学生・ベテラン会員）および地方公共団体職員の方：4,000 円

【運営体制】

主催：特定非営利活動法人日本サステナブル・コミュニティ・センター

後援：京都府、京都市、京都新聞社、IT コンソーシアム京都
【定員】220名

5. 広報・マーケティング

Web サイト、プレスリリース、各種メーリングリストでの広報・マーケティングを行った。

5-1. 各種メーリングリスト運営

SCCJ 関連で、テーマ、目的別のメーリングリストが 10 数本あり、ネット上で協働作業や情報交換を行っている。その中でも一般情報交換用メーリングリスト「aibousan」は、誰でも入れる双方向型のメーリングリストで、設立当初の 1999 年の 190 名から、2014 年 12 月末に登録者は 569 名である。

5-2. Web サイト運営

2014 年現在運営しているサイトは以下の通り。

- | | |
|-------------------|---|
| ・ SCCJ | http://www.sccj.com/ |
| ・「みあこネット」方式普及支援事業 | http://www.miako.net/ |
| ・どこカル. ネット | http://www.dokokaru.net |
| ・ポケットカルテ | http://pocketkarte.net/ |
| ・アグリライフ | http://www.agri-life.net/ |

6. 会員について (2014 年 12 月末現在)

<SCCJ 正会員>

会員種別	継続	新規	計
一般	42	12	54
学生	0	0	0
合計	42	12	54

<どこカル. ネット企業・団体会員>31 社
詳細は「どこカル. ネット」項目を参照のこと。

II センター運営に関する活動

1. 総会

特定非営利活動法人日本サスティナブル・コミュニティ・センター 総会

日時： 2014 年 2 月 6 日（木） 19:00-20:00

会場： 同志社大学今出川烏丸キャンパス 志高館 2 階 SK288 共同研究室

2013 年度活動報告・収支報告、理事の改選、2014 年事業についてについて了承された。

2. 2014 年度 SCCJ 理事会開催日

下記の日程に於いて、理事、事務局スタッフによる定期理事会を開催した。

- ・ 2014 年 1 月 16 日
- ・ 2014 年 2 月 6 日
- ・ 2014 年 3 月 20 日
- ・ 2014 年 4 月 17 日
- ・ 2014 年 5 月 15 日
- ・ 2014 年 6 月 19 日
- ・ 2014 年 7 月 17 日
- ・ 2014 年 8 月 21 日
- ・ 2014 年 9 月 18 日
- ・ 2014 年 10 月 16 日
- ・ 2014 年 11 月 20 日
- ・ 2014 年 12 月 18 日

3. 事務局体制 (2014 年 12 月末現在)

(1) 職員

常勤：3 名

プロジェクト・コーディネータ：小川麻理

どこカル ネット事業運営責任者：中辻善行

どこカル ネット事務局スタッフ：横田健吾

どこカル ネットボランティア：26 名

4. 理事、監事、顧問 (2014 年 12 月末現在)

(50 音順)

代表理事	新川 達郎	同志社大学大学院総合政策科学研究科教授
理事	竹原 司 (副代表理事)	インフォグリーン株式会社代表取締役社長／株式会社デザイン・クリエイション最高顧問／社団法人コンピュータソフトウェア協会理事・名誉会員
	平澤 創	株式会社フェイス代表取締役社長
	隅岡 敦史	静原ミレットファーム
監事	土井 充	公認会計士 土井充事務所
顧問	跡田 直澄	嘉悦大学ビジネス創造学部学部教授
	北岡 有喜	国立病院機構京都医療センター医療情報部長
	國領 二郎	慶應義塾常任理事
	辻 正次	兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科教授
	町田 洋次	元社団法人ソフト化経済センター理事長
	三木 秀夫	弁護士・大阪 NPO センター理事

以上